

水塚と上げ舟

～水害常襲地帯の水除けの知恵～

土を一段高く盛り上げた上に食料を置いたり避難場所になったりした「水塚」
納屋などに吊り下げておき、出水時に避難や移動に使用する「上げ舟」。



川島町の下八ツ林薬師堂にある上げ舟



納屋に吊るされている上げ舟



水塚（川島町）

水塚と上げ舟

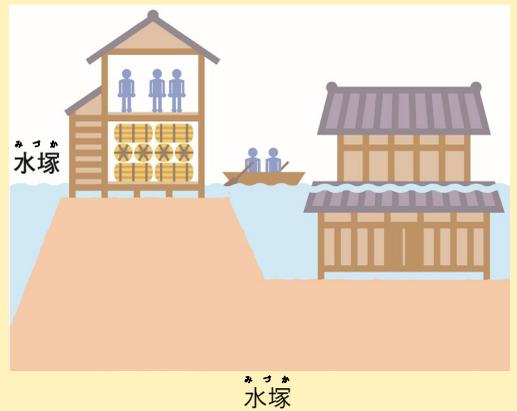
荒川流域には、水塚と呼ばれる、敷地内の一部に土を一段高く盛り上げ、石垣を築いてその上に白壁の蔵を建て、洪水時に避難するために用いられた建物など、水害常襲地帯であった荒川に生活した人々の知恵が残っています。

また、近世の埼玉平野における船は、渡し船ばかりでなく、農業に使用する耕作船や茶船、下肥船、高瀬舟など多種の船があり、水田の他河川や用排水路を通行していましたが、なかでも、特筆すべき船が上げ舟です。

別にピセンとも呼称され、船の大きさは多様ですが、主に川下小舟が用いられました。常時は納屋などに吊り下げられていて、出水時に使用する重要な舟でした。現在も埼玉平野の農家の納屋などで見ることが出来ます。

みづか 水塚

荒川の中・下流域で見られる一般的な水塚は、敷地内の一部に土を一段高く盛り上げ、右垣を築いてその上に白壁の蔵を建て、普段は食料などを保管する施設として使用しました。洪水時には家人が避難するための建物となり、孤立しても支障のないような設備としました。荒川の中・下流域では、低地が続く右岸一帯に分布しており、志木市や吉見町・川島町などに多く見られます。



下八ツ林薬師堂の上げ舟

1910（明治43）年の洪水では川島町内各地で破堤し壊滅的な被害を受け、その惨状に明治天皇からの下賜見舞金があり、その見舞金で洪水時の救助・運搬用の上げ舟を造った地域もありました。記録では伊草村4艘、三保谷村12艘、八ツ保村8艘が建造され、八ツ保地区の下八ツ林薬師堂に一部現存しています。



下八ツ林薬師堂

コラム 水塚の各地での呼称

洪水がしばしば発生する河川の中・下流域の低地に造られた水防建造物は日本各地に分布しており、荒川流域では水塚（みづか）と呼ばれています。信濃川下流では水倉（みづぐら）、濃尾輪中流域、筑後川下流では水屋（みづや）、淀川下流では段蔵（だんぐら）、大和川（奈良）では御蔵（ごくら）などと呼ばれ、いろいろな構造や形態がありますが、居住空間の一時的な避難場所として機能しています。

アクセス

水塚の多い出丸地区

交通：JR高崎線「上尾駅」下車、東武バス「川越」行き、「入間大橋」下車
住所：川島町出丸

上げ舟のある下八ツ林薬師堂

交通：JR川越線・東武東上線「川越駅」下車、東武バス「鴻巣」行き、「八ツ林（川島町役場入口）」下車、徒歩18分

住所：川島町下八ツ林地先



水塚の多い出丸地区

上げ舟のある下八ツ林薬師堂